



NEWS LETTER

No.20
2017

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)シンポジウム開催 女性研究者の活躍による豊かな未来の生活

11月11日(金)

—大学・企業・地域の共同研究に向けて—



宮浦千里氏

文部科学省の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に取り組んでいる連携3機関(山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学)共同でシンポジウムを開催しました。米沢会場(伝国の杜)88人、東京会場(大日本印刷)12人(TV会議)、計100人の参加がありました。

東京農工大学副学長で、女性未来育成機構機構長でもある宮浦千里氏から、女性研究者の現状と国際比較、女性活躍推進法による動き、東京農工大学の取組についてご講演をいただきました。また、山形大学の城戸淳二教授からは、有機エレクトロニクスを活用した共同研究の推進に向けて提案講演をいただき、快適で豊かな未来の生活創造への参画が促されました。さらに、女性研究者の成果発表が行われました。

1. 基調講演「女性研究者が活躍できる環境とは」 宮浦千里氏(東京農工大学副学長)

どのような研究環境が必要か、男女共同参画の視点、人材育成の視点等から総合的に考える時代になってきています。日本の女性研究者割合は、14.6%とOECD加盟国中最も低く、これまで低かった韓国と比べても対応が遅れています。また、分野別・職位別にみて問題なのは、理学・工学・農学系の女性教授が平均4%程度に留まっていることです。この数値を改善すると共に、女性教授割合が高い分野ではより管理的な地位の女性を増やすことが重要です。

「202030」という言葉をご存じでしょうか。2020年までに社会のあらゆる分野において指導的地位に女性が占める割合を30%にするという目標です。政治・行政・民間を問わず女性管理職割合が低いのです。

理系だけの国立大学である東京農工大学では、女性未来育成機構として女性支援事業を行うと同時に、大学改革の中でグローバルイノベーション研究院を立ち上げ、海外との国際共同研究や国際共著論文の飛躍的な増加に力を入れています。環境整備の取組みとして、研究支援員派遣制度、産休期の専任ポスト配置制度を導入し、また2箇所のキャンパスそれぞれに学内保育所を設置しています。

平成21年度から5年間女性研究者養成システム改革加速事業にて女性教員を17人採用しました。その後も公募を継続し女性がいない学科はなくなりました。

今後、ネットワークを組んで情報共有していきたいと願っています。ありがとうございました。

2. 提案講演「有機エレクトロニクスが創る快適で豊かな未来の生活」 城戸淳二教授(山形大学)

有機エレクトロニクスは従来のエレクトロニクスと違って、軽くて安くて成型加工しやすく、電気が流れて発光性を有するので、工夫するといろいろな機能を付与することができます。大きな特徴は曲げられるということです。例えば将来120インチのテレビが欲しくてもマンションのドアを通りません。しかし、ロール状に巻けるテレビなら大丈夫です。また、有機EL照明は、従来の人工的な光と違って物が自然にきれいに見えるのでストレスを受けません。将来の生活空間が体験できる実証実験施設を「スマート未来ハウス」と名付けました。ここでは照明器具の無い照明空間、ストレスチェックができるトイレ、体調がモニターされるベッドなど様々な開発をしています。是非、見ていただいてご意見をいただければ、我々はそれを実現していきます。



城戸先生

3. 成果発表

(1) 女性代表共同研究成果発表

①「鮮度保持用自己湿度管理と保冷機能を持つゲル新素材」山形大学学術研究院 助教 宮瑾

②「身体障がい者の骨密度の分布と関連要因に関する検討」

山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部長・教授 大和田浩子



宮先生



大和田先生

(2) サービスデザインプロジェクトの報告

「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～プロジェクトの活動概要と経過報告」

大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部 松尾佳菜子・松田久仁子



松田さん

松尾さん

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の紹介

◎英語プレゼンセミナーを開催しました。

米沢(8月22日)、小白川・飯田(8月24日)、
鶴岡(8月26日)の各キャンパス



イブトナー・カロリン先生(米沢会場)

工学部国際交流センター助教のイブトナー・カロリン先生を講師に迎え、英語プレゼンセミナーを5会場(大日本印刷株式会社研究開発センター会場はTV会議)で開催しました。教職員・学生、計91人の参加があり、多くの方から好評をいただきました。

良いプレゼンテーションをするための準備とスタートの仕方、シンプルなタイトル、多くの文字より単純明快な図と興味深い事実を使う、などのコツが紹介されました。緊張したときどうするか。ゆっくりとした話し方とスマイルが緊張をほぐしてくれること、とにかく練習が自信につながること、Simple is Best! であることが強調されました。最後に、インターネットで著名な方々のプレゼンテーションを是非チェックしてみてくださいとのことでした。

◎企業の研究開発体験へ女子学生の交換留学

8月7日～9日

大日本印刷株式会社研究開発センターの招きで、女子学生が研究開発体験をする交換留学が昨年度から行われています。博士課程進学者の増加とひいては大学や企業の女性研究者の裾野拡大を目的とするもので、つくば研究施設や柏研究施設の見学、女性研究者や管理職による講演および交流会を通して、未来の自分の姿が描けるように企画されました。今年度は8人の女子学生(山形大学6人、山形県立米沢栄養大学2人)が研究開発センターへ3日間招かれました。

参加した学生: 理学部修士課程1年 荒井みゆさん、平原真菜さん

工学部修士課程1年 藤田夏鈴さん、荒澤美紅さん

工学部3年 江連春菜さん、4年 植松真由さん

学生から「様々なお話や意見を聞き、将来の不安に対する自分なりの答えを出すことができました」「誰にでも平等にチャンスがあり自由な雰囲気、企業に対するイメージが変わりました」という報告がありました。



DNPの皆様と交換留学生

◎違いを認め、互いを活かすチームづくり(第3回自己啓発合宿)

11月29日・30日



講師の小西ひとみ氏

職場でのチームワークや共同研究、指導・教育の場面で必要な「チームビルディング」をテーマに、ライフデザインズ・オフィス代表の小西ひとみ氏を講師に迎えて開催されました。職場環境や組織の構成員が多様化する中で、ダイバーシティ&インクルーシブな環境をめざすリーダーシップ・スタイルを学びました。

参加者の1人は、「リーダーシップを取ることが苦手とと思っていましたが、シェアード・リーダーシップの考え方では、グループの発達と目標達成のためにすべてのメンバーが分かち担うものということを知りました。グループ演習やケーススタディから、メンバーを励ましたり、物事の提案、まとめ、確認作業もリーダーシップのあり方の1つということがわかり、明日から実践してみようと思います」と話していました。

◎博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院と合同で、アカリク(株)の野村嗣氏を講師に招き、学部生、修士・博士課程在学学生等を対象に、キャリア・就職活動セミナーを行いました。1月10日鶴岡キャンパス(農学部)では6人、1月11日米沢キャンパス(工学部)では26人、TV会議中継の小白川キャンパス(理学部)からは7人(合計39人)の参加がありました。

学生から実際に就職活動する際の方法や、留学生や女子学生が就職活動する時の心構えやポイントについて質問が出されました。参加者から「就職活動で博士の何をアピールしていくかが明確になった」「大学の研究と企業の研究の違いが分かった」などの感想が寄せられました。

セミナー終了後に設けられた個別相談会は、講師と1対1で話すことができたため、予定時間を超えて熱心な相談が行われました。

鶴岡(1月10日)、
米沢・小白川(TV会議)(1月11日)の各キャンパス



鶴岡会場



米沢会場

学長・学部長と教職員とのワーク・ライフ・バランス懇談会

ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、改善すべき問題の把握および率直な意見交換を目的に実施しています。

地域教育文化学部

テーマ「WLB、パネル展アンケート結果について」

男性・女性それぞれの立場からの感想、子育てや介護についての家庭の悩みなど、幅広い意見交換が行われました。WLBの大切さを実感した、貴重な時間となりました。



9月7日(水)
11:30~13:00
17人参加

農学部

テーマ「働きやすい職場環境を実現するためのWLB」

学童保育への補助金はないがたい。男性の育児休業取得者が出るのが望まれる。全教員の参加で困っている人の声を共有する場が必要だ、等の意見がありました。



11月9日(水)
14:00~15:00
12人参加

理学部

テーマ「理学部新体制に向けて予想される懸念事項のリストアップ」

組織体制および業務の変化に関わる意見が出され、様々な課題が見つかりました。今後は、この課題に対応していくことになりました。



11月24日(木)
16:30~17:30
25人参加

人文学部

テーマ「仕事と生活の調和(WLB)について介護を中心に」

清塚学部長の挨拶の後、参加教員からは介護の経験が率直に出されました。日頃からこのような話ができ、配慮のある環境にしたいということが合意されました。



12月26日(月)
16:00~17:00
20人参加

附属学校でWLB懇談会を開催しました。

附属幼稚園、小・中学校

研究会等に向けて、とかく打合せが遅くまでかかってしまいがちな附属学校でも、個々のWLBに配慮し、時間外勤務を減らすよう、山形大学の取組みを紹介し、検討を求めました。



10月31日(月)
17:00~17:30
約40人参加

阿部理事からWLBの取組紹介

附属特別支援学校

WLBの実現に向けてこれまでの山形大学の取組みを紹介した後、教頭先生から、公立学校から附属学校に移った時、休みが取りにくいと感じた。もし、同じように感じている人がいたら相談してほしい、という話がありました。



1月16日(月)
16:00~17:00
32人参加

女性研究者裾野拡大セミナーに参加した女子高校生・保護者の声

農学部 「農学部女子!研究者になる!!~それってどんな?何するの?~」



渡部貴美子氏(山形県農業総合研究センター水田農業試験場研究員)の講演

女性として働くことについて知ることができた。研究者の道も視野に入れたい。

自分の将来に自信がもてました。ありがとうございました。

自分も研究者になりたいと考えているので、今後につながるよい話が聞けてよかった。

娘が研究者になりたいという夢を持っているので、家族として協力したいと思った。(保護者より)

工学部 「研究者になることを考えてみよう!」堀頭子氏(芝浦工業大学准教授)・仁科浩美准教授(山形大学)の講演とパネルディスカッション



高校生から質問(パネルディスカッション)

研究に対して感じていた壁のようなものがなくなった気がする。自分の希望を大切にしていきたい。

科学に対する興味や関心が高まった。英語力を磨こうと思った。

女性も研究者として輝けるのだとわかりました。自分の将来への視野を広めていけるようにしたいです。

パネルディスカッションを今までみたことがなかったが、オープンな雰囲気での楽しい上に有益な情報が知れてよかった。

理学部 第1回「理学部で何ができるの?~女子高校生のための山大理学部案内~」 第2回「理学部の研究室を覗いてみよう」

山形県立山形西高等学校の生徒を招いて2回のセミナーを開催しました。2回目のセミナーでは、脇克志教授から「夢を叶えるためには、まず好きなこと興味のあることを見つけてください」という挨拶があり、その後、高校生が希望の学科に分かれて講義や実験に参加しました。

参加した学生からは「視野が広がった」「理系や理学部のイメージが改まった」等の感想が寄せられました。



数理科学科では美しい曲面の作成に挑戦

大森 桂 先生

学術研究院(地域教育文化学部担当)
准教授



今回の海外研修が実現するまで、二つの文書をいつも持ち歩いていました。一つは、所属学部のサバティカル研修の規程。もう一つは、人文学部の女性の先生がお子さんを連れてイギリスに研究に行かれたという男女共同参画推進室のニュースレターの記事。私が息子三人を連れて、長年の夢であった海外研修を決断する上で、この記事はとても大きな励みとなりました。サバティカル研修の規程を何度も読み返し、子ども達の年齢や対外的な仕事のスケジュールも考え、今年度しか行くチャンスはないと考え、数年前から準備を進めました。

もともと我が家は、社員の夫が東京に単身赴任をしており、平日は母子で暮らし、週末にパパが山形に帰ってくるというスタイル。子どもを研修先のアメリカに連れて行くか、東京か実家の近くに転校させるか悩みました。夫からは、研修に専念したいなら子どもは日本に置いていった方がいいとアドバイスを受けました。一方で、海外で暮らすことは子どもにとっても貴重な経験になると考え、夫婦揃って子ども達に計画を打ち明け、まずは本人達がどうしたいかを聞くことにしました。11歳の

「コロンビア大学(アメリカニューヨーク州)での約7ヶ月間のサバティカル研修」

長男は山形に残りたい、8歳の次男と4歳の三男はママとアメリカに行きたいという答えでした。長男はその後もかなり悩みましたが、小学校や学童保育の先生方にも背中を押してもらい、最終的には、息子3人全員を連れて渡米し、夫は勤務があるので日本に残り、最初の生活の立ち上げ(夏季休暇)と年末年始の休暇にアメリカと一緒に過ごすことになりました。

以前から、研修のチャンスがあるなら、ぜひこの先生の所と決めていたのですが、幸か不幸か、大学の所在地は、ニューヨークのマンハッタン。観光で来ると、生活するのでは、全く異なることを痛感しました。さらに、子ども3人連れてとなると、それなりの広さの住宅、子どもの教育や医療など、身軽な単身生活とは大きく異なり、国内での手配の段階から色々苦労しました。一方、実際にニューヨークで生活を始めてみると、人種のつぼみでもあることから、英語でのコミュニケーションがまだほとんどできない息子達に周囲の方々の対応も温かく、また日本人駐在員も多いので、日本人のご家族と知り合えたり、日本食材を容易に入手できる点は、メリットと思いました。自分の研修に関して言えば、子ども達が学校で過ごしてくれている平日の8時半から18時までが自由に使える時間となります。しかし、子どもが病気の時や学校が祝日等でお休みの時もあり、加えて、大学での夜間の授業やワークショップへの参加は難しく、シッターの手配も考えましたが、子どもの負担も高まるので、ほとんど自分

一人に対応できる範囲で研修内容を組むようにしています。幸い、子ども達が健康に過ごしてくれているので、とても助かっています。サバティカル中とはいえ、大学からの事務的な連絡や書類の提出依頼等もあり、インターネットで毎日メールのチェックをしています。また、日米の時差が大きくて開催時刻に苦慮しますが、パソコン用カメラを使い、研究継続支援員の方と定期的にスカイプで打合せをし、私の代わりに事務手続きなどをして頂くことが大変有効でした。海外研修中こそ、研究継続支援員は非常に有益と実感しています。卒論指導も同様に、カメラでお互いに顔を見ながら、学生と直接話をして行っています。おかげ様で、コロンビア大学では、気さくで協力的な先生方や学生さんに恵まれ、とても充実した研修を行うことができています。栄養教育に対する自分の視野も大きく広がり、日本の良さを再発見することも多々あります。思い切って息子達を現地校に通わせたことで、保護者としてアメリカの教育に関する様々な経験もできました。3月に、母子共々たくましくなって帰国し、この貴重な経験を生かしたいと思っています。多大なご理解とご協力を賜りました大学の教職員の方々に厚く御礼申し上げます。



大学周辺の様子

Information

医学部病児保育室 オープン

平成29年
1月4日～

- ◎場 所：山形大学医学部管理棟1階 正面玄関北側
- ◎対 象：本学に所属する職員の子どもで、急性感染症や慢性疾患に伴い、当面、症状の急変は認められないが、病気の回復に至っていないことから集団保育が困難で、かつ、保護者の勤務等の都合で家庭で保育を行うことが困難な子ども
- ◎定 員：3人(生後6か月から小学3年生まで)
- ◎利用日時：平日の7:30～18:00
- ◎利 用 料：保育料1日500円、半日(5時間未満)300円
- ◎そ の 他：詳細は、「医学部ホームページ」の「組織」→「医学部病児保育室」(<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/byouji/index.html>)をご覧ください。



1/5 第1回目の病児保育の利用がありました。

Information

米沢キャンパス託児サポーター制度 スタート

平成28年
12月12日～

- ◎場 所：山形大学米沢キャンパス ゲストハウスYU談話室
- ◎対 象：連携機関に所属する職員(定時勤務職員及び短時間勤務職員を含む)の子ども
- ◎定 員：5人(満1歳から小学6年生まで)
- ◎利用日時：平日の13:00～19:30、大学入試センター試験日は7:30～18:30までの間
- ◎利 用 料：徴収しない
- ◎託児体制：子どもの人数に応じた保育士と託児サポーター(養成講座を修了した学生)との複数名による託児
- ◎利用方法：最初に利用する10日前までに男女共同参画推進室米沢分室に登録する託児を希望する日の7日前までに米沢分室に申し込む
米沢分室(Tel.0238-26-3359、Email:y-danjoyz@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)



12/26 第1回託児サポーター制度の利用がありました。

編集後記/医学部病児保育室の開室、米沢キャンパスでの託児サポーター制度の開始と保育支援がさらに充実してきました。仕事と育児を両立させるうえでの不安が少しでも軽減されることを願っています。(2017年2月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4938/4939
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>